

4 YU・らいふ・サポート事業

I YU・らいふ・サポート事業の実施概要について

1 概要

県立盲・聾・養護学校が家庭及び地域社会等との連携のもと、障害に応じた様々な体験活動を通して社会参加の基盤となる「生きる力」の育成を図った。

2 内容

- (1) 社会参加活動（全22校対象）
- (2) 就業体験活動（高等部設置17校対象）

II 実施内容と成果について

1 社会参加活動

(1) 実施内容

社会参加活動は、障害児の自主性や社会性を育むために、地域の小・中学校等との交流や老人会など地域の諸団体と清掃活動等を行うなどの交流活動を中心に実施するなど地域社会への参加活動を推進した。

活動例

- | | |
|-----------------|------------------|
| ・地域中学校点訳クラブとの交流 | ・老人ホームでの理容奉仕活動 |
| ・地域文化祭交流 | ・地域幼・小・中・高との交流会 |
| ・プロ野球選手との交流会 | ・地域での交流田植え、稲刈り 等 |

(2) 成果

- ・学校教育への支援だけでなく、障害児教育に対する理解啓発をさらにすすめることができ、共生の社会づくりへの契機となった。
- ・多様な体験を通して児童生徒の対人関係を広げるとともに、自主性や社会性を培うことができた。
- ・将来、地域社会に生きていく障害児に対する支援方法を探る契機となった。

2 就業体験活動

(1) 実施内容

就業体験活動は、地域の企業、学校、労働・福祉関係機関等との連携を図りながら、高等部卒業後の進路開拓や生徒の職業的自立をめざし、地域の就業機関や作業所等での職場見学や就業体験活動を推進した。

活動例

- | | |
|---------------|----------------|
| ・企業見学と就業体験 | ・卒業生の体験談を聞く会 |
| ・地域高校での作業実習交流 | ・ハローワークとの連絡会 |
| ・治療院、病院の見学 | ・施設長、事業主から講話 等 |

(2) 成果

- ・働くということを通して実社会を体験できる貴重な機会となった。
- ・実習や見学を通して、様々な情報を得ることができ、将来の生活設計や進路決定についての意識を高めることができた。
- ・責任感、根気、協調性、正確さなどの養成と対人関係や社会性の育成をはかることができた。

事業名 障害児の自然体験活動推進事業

1 事業目的

自然とのふれあいや集団活動などの経験を通じて、自立を目指した知識、技能、態度及び習慣を身に付けるとともに、豊かな心情や社会性を養う。

2 事業内容

自然の中でのキャンプ等の自然体験活動や児童生徒の実態に応じた各種活動を実施する。

- (1) 対象校 小・中学部を設置する公立盲・聾・養護学校
- (2) 対象者 原則として小学部高学年及び中学部とするが、設置学部、在籍者数等を考慮して、学校が決定する。
- (3) 実施期間 2泊3日程度
- (4) 場 所 各校の自然体験活動実施計画を基本に、その目的に適した県内の施設等を選定するものとする。

3 効 果

- (1) 自然体験活動を通じて、全員で一つの行事を成し遂げる達成感や役割を果たそうとする気持ち、協力し助け合って生活しようとする能力が身に付き、集団生活での基本的な生活習慣が向上する。
- (2) 家庭を離れた環境の中で、友達や教師と一緒に生活する経験を通して、身の回りのことを自分でしようとする意欲が高まる。
- (3) 自然との触れ合いを通じて、新しい発見をすることの楽しさ、自然を大切にすることの気持ちや安全への心構えができる。
- (4) 教師が児童生徒と学校とは違った環境の中で生活を共にすることにより、児童生徒の実態がより明確に把握することができ、以後の学校での指導に生かすことができる。